国内外動向、国と都戦略の目標を踏まえた目標の考え方

参考資料１
令和５年７月19日
令和５年度第１回千代田区
生物多様性推進会議

論点
前回提示の2050年目標「ネイチャーポジティブの実現」を2030年目標に設定したい

論点
千代田区の「ネイチャーポジティブの実現」の姿についてご意見をうかがいたい

参考：
前回提示2050年目標
皇居を中心とする豊かな生きもののネットワークが周辺地域に広がる とともに、だれもが生物多様性の重要性を理解し、行動して、 ネイチャーポジティブな都心が実現している。

国内外の動きでの重要なキーワード
●SDGs（持続可能な開発目標（SDGs）**「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す」**
●国連気候変動枠組み条約COP26（2021/10-11）及び**「グラスゴー気候合意」**
日本は温室効果ガスの排出量を「2030年にはマイナス46%」「2050年にはカーボンニュートラル」を掲げる（2021年）
●**自然を活用した解決策（NbS）**
●2022年「昆明・モントリオール生物多様性枠組み」が採択。2030年ミッションとして、**ネイチャーポジティブ（生物多様性の損失を止め反転させる）**を目指すことを合意

2030年は世界、日本ともネイチャーポジティブが実現する年（ターゲットイヤー）

日本「生物多様性国家戦略2023-2030」

2030年目標　「ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」、2050年ビジョン「自然と共生する社会」

東京都「東京都生物多様性地域戦略

2030年目標「自然と共生する豊かな社会を目指し、あらゆる主体が連携して生物多様性の保全と持続可能な利用を進めることにより、生物多様性を回復軌道に乗せる＝**ネイチャーポジティブの実現**」
※ネイチャーポジティブ将来イメージ：「豊かな自然が後世に受け継がれている」「自然の機能が都民生活の向上に生かされている」「社会課題解決に生物多様性が活かされている」

↓　上記動向と千代田区の特徴・課題を踏まえた改定版「ちよだ生物多様性推進プラン」の目指す方向性と目標　↓

目標達成のために取り入れるべき考え	**30by30**（陸域・海域の30%を保全） 30by30：2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標	**NbS**（自然を活かした解決策）	**ネイチャーポジティブ 経済・技術革新**	**意識の改革・行動変容**	**取組みを後押しする 基盤情報の整備・共有**
特徴・課題を踏まえた目指す方向性	皇居の豊かな緑を核とし大規模緑地、企業緑地をつなぎ広げることで都市全体の生物多様性向上を図る	自然の機能を活かした防災・減災・ヒートアイランド抑制を図る 環境負荷を減らす移動を促進する	企業の取組み・人材を地域に活かす、世界に発信する 地域経済活性化につながる消費行動に転換する 負となる活動を抑制する	環境負荷の少ない消費行動・活動を促す ウォーカブルなまちづくりを推進する	自然環境情報の蓄積と学校教育や企業緑地整備等への活用の仕組みづくり

2030年目標

ネイチャーポジティブの実現　千代田区の皇居を核とした生物多様性を支える生態系が区外にまで広がり、区内外の緑地の質と量が高まっている

戦略Ⅰ
皇居の緑を核とした生態系ネットワークの形成・強化

戦略Ⅱ
自然共生社会を意識した行動の浸透

戦略Ⅲ
自然を生かした多様な社会課題の解決

2050年目標

千代田区の皇居から広がる生物多様性を基盤とした持続可能なライフスタイルがあたりまえになり、将来にわたるすべての社会課題の解決に“生物多様性”がつかいこなされている